

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【東宮下小学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	次年度に向けて (3月)
思考・判断・表現	年度末評価 (2月)

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	【学習上の課題】漢字や計算問題において、正答数が半数に満たない。 【指導上の課題】児童が反復、習熟に取り組む時間の設定が不十分である。	⇒ドリルパークやミニミニテスト等を活用し、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組む【毎授業開始時の実施】。その際、児童の学習履歴を確認し、目に見える形で掲示し、学習の伸びが実感できるようにする。【月に1度の実施】。授業中に児童が自らの学びを振り返る時間を設定し、次の学びに生かせるようにする【毎時間設定】。また、振り返りをかまへ、授業において、児童とともに必要感のある課題を設定したり、児童が主体的に課題を解決したりする場を設定する【毎授業10分実施】。
思考・判断・表現	【学習上の課題】国語・算数の「思考・判断・表現」の記述式問題の無解答率が高い。 【指導上の課題】児童が自己表現する過程を教師が十分に評価できていない。	⇒児童が作品、ノート、ワークシート等に取り組む際、評価の観点を明確に示し、児童が思考したプロセスにコメントや花丸等を付記して、評価する。【毎回実施】。活動の中に共同編集を位置付け、協働的な学びを通して考えたり、表現しようとしていくことができるようにする【R6年度さいたま市学習状況調査「学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合が90%以上】。

⑤	評価(※)	調査結果 授業改善策の達成状況
知識・技能		①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修等
思考・判断・表現		結果提供(2月)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語の主語・述語の関係をつめる問題に課題がみられた。解答類型を見てみると、述語についての理解はできているが、文章の最初にある単語を主語と捉えている児童が多く、主語に対する理解が不十分であると考えられる。また、文を構成する語句が増えるとさらに正答率が低くなる傾向もみられる。 問題を図や絵を用いて読み取る活動や、具体物操作や実験的な活動を多く取り入れるなど、体験的な活動を通して知識を獲得する学習活動を展開する。また、基礎的な内容を繰り返す学習を通して、児童に「できた」を味わうことができる学習を推進する。	
思考・判断・表現	算数の「図形」領域において課題がみられた。図形の形に合わせた面積を求める式を選ぶ問題の無解答率が高いことから、公式の意味の理解が不十分であると考えられる。「学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」における、肯定的な回答の割合は88%であることから、共同編集等、協働的な学びの機会をさらに確保しながら、図形の面積公式を扱う際には、「なぜその公式になるのか」を考えたり説明したりする活動を重視したい。	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	毎授業の始めにミニテストを活用し、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組む、個別に学習への自信をつける一連の流れを形成できた。 自己の振り返りができる時間を毎時間設定しているが、時間内に実施できない時もあるため、タイムマネジメントをしっかりと行っていく。	変更なし
思考・判断・表現	C	児童が思考したプロセスに対して、コメントを付記できたのは2回に1回程度であった。 活動の中に共同編集を位置付けることができず、協働的な学びにつなげることができなかった。	児童が作品・レポート等に取り組む際、評価の観点を示し、児童が思考したプロセスにコメントまたはアクションを付記して、評価する【毎回実施】。協働的な学びを通して考えたり、表現したりすることができるように、活動の中で共同編集やコメントの送り合いを実施する【毎単元10分実施】。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)